

Ningyo LAB



社会は変わる
時間は速まる
希望はきりの中へ
守るために戦う
リスクを負わない安全の道
マニプレーション
人は弱くなり始める
精神も体も病んだ時どうやって抜け出せるのか



21世紀に生きる私達の人々のあり方はどのような形なのであろうか？

圧縮された時間と厳しい抑圧の中で
毎日繰り返し任務を負わされ生きている
ある者はそれでも時代の流行に乗り
ある者は流行を追わず自分のやり方を守り続けようとする

どうやってこの新しい時代を乗り切れば良いのか
人が物を創り出し利用して生活をしてきた時代は
心と体が同時に存在していた
人が指先一本で全てを創り出そうとし始めてから
心と体はどこに存在するのか

自分だけの空間に閉じ籠るとそこには何が待ち受けるのか
時間はどのように流れ動くのか
物との対話はどこまで可能なのであろうか
呼吸はどこにあるのであろうか

人の価値はどこに置けばよいのか
この時代何がまだ私達の心をゆさぶるのか
人の姿とはどのような形であるべきなのか



女 / 男 / 彼らが持ち合わす物と者 / 目的

Ningyo LAB、人形ラボは、今を生きる男女2人がそれぞれの方法で自分と向き合っていく姿を平行して描いていく。テクノロジー映像そして物と心が触れ合う時の人の形。自分が良いと思う方法を進めていくが、そこには保障される何かは存在するのか。何を探し求めて毎日歩いているのであろうか。目的地にたどり着いたら満足なのであろうか。そこに立ち止まれることはできるのであろうか？失ったものを大事にするのか、それとも新しいものを大事にするのか、何が人の心を癒してくれるのか。。。それは人間なのか人形なのかを探ってゆく実験ラボ。

昔は女は優しく男に仕える姿が美しいとされてきた。
言われるままに生きることが普通であった。
男は自分を中心に世の中を動かしていくことを学び
強く凛々しく生きることが普通であった。
今は女はある時は女を使いある時は男になる。
男は男でありたいが、ある時男は女を演じる。

女が男に頼らなくなる瞬間
男が理想の女の姿を探し求める瞬間

女が体を操らせていく瞬間
男が自分の思い通りに女の姿を操る瞬間

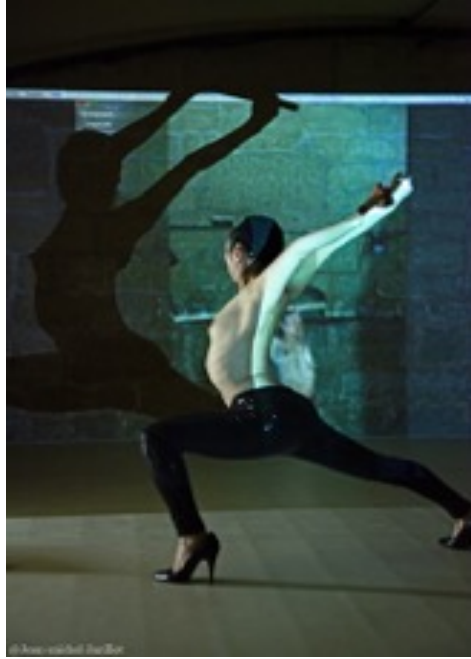
女の心が奪われていく瞬間
男が失った女を想う瞬間

女が親子の姿を眺める瞬間
男が子供がいたならばと想像の世界を描く

人形の女ではなく人間の女となる瞬間
男が理想ではなく現実の女を見る瞬間

理想を追うのではなく現実を受け入れる瞬間
どんな反応をするのであろうか

女



ある女は、こうするべきであるという教育、常識の中で生かされ、義務的な生活に疑問を持たないで生きてきた。ある日、自分がどこにいるのか、どうであるのか疑問を持ち、今ある現実から逃避しようと試みる。何がいけないのか、どうしてこうなるのか、その疑問を自分に問いかけるよりも周囲に受けられないことに不安を持ち、今のニーズに応えるために自分を変えていこうとする。それは指先一本で人生をどうにでも変えることができるパソコンと関係である。

自分の全てを映し出しきれない外界での生活のストレスを解放するかのようにパソコンと自分だけの空間に自分の姿を映し出し、自分の魅力を確認する。”誰にも知られずになんでも秘密のことができる”、でもそれと裏腹に果てしない数の自分を知らない人間達に見ていて欲しいと願う欲望が潜んでいる。ボタンを押し 1人、2人、3人といろいろな人間を知る。彼女の心は何に揺らされるのであろうか。音色の振動なのか、言葉なのであろうか、それとも家族の形なのか・・・指先から電波の波にのせられ未知の世界に引き込まれて、体が映像の中に陶醉していく。変身していく自分に感嘆するが、電源が一瞬にして消滅すると、そこには空想の世界に一瞬だけ生きた自分と現実の自分の姿が待ち合わせている。

自分の存在はどこにあるのであろうか？何が必要なのであろうか？ただ人に気に入られるための人形になることだったのか？

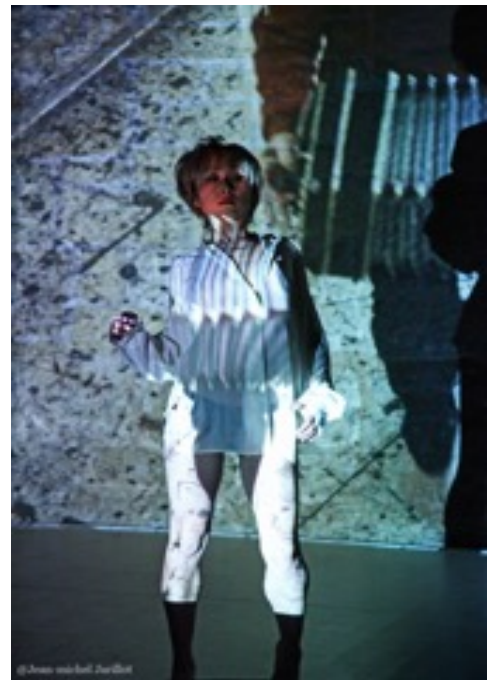
この分離した身体をいつの日か、指先からだけの一方的な愛ではなく、全身で相手と向き合い、分かち合う愛を求めることで満足することができる日がくるのであろうか。

男



ある男は毎日繰り返される任務になんの不満も疑問も持たずに、ずっと自分のやりかたを信じ、それが良いと生き続けている。

ただある日、そこにあると信じきっていたはずのあるものが無くなっていることに気がつく。自分が何を犯したのか分からない。良いと思ってしてきたことが、実は相手には同じ価値がなかったのである。残された一つ一つの物を手に取り、自分とその物との間で創ってきた思い出を振り返ってゆく。その中には何か解決する方法は見つかるのであろうか？いつの日かまた元に戻る事を祈り、バラバラになった記憶と物を一つ一つ確かめながらどうしてそうなったのかを自問自答する。脳裏と胸に渦巻く思いを物に吹き込んでいくと、そこにはあたかも本物の人物のような理想の女の姿が甦るのである。自分の思いのままに動いてくれるこの人形と一緒にいると、自分も再び生き返り始めるのである。永遠のデュエットと願う舞いが繰り広げられる。いつの日か、風の知らせで、愛した人には違う人生が始まり出しているのを知る。子供がいるともいう。自分の中に閉じこもり、自分にもこの人との子供がいたならばどうであっただろうと、その子供がかれの脳裏に舞い降り操り操つられて喜びのときを生きる。良き思い出だけを胸に空想の世界へ導かれてゆく。現実の世界を遠くから覗き込む。新たな考え方をもち、新たな出発をすることが出来るのであろうか。



人の形とはどういうものであろうか
2つのプログラムがある
それぞれに同じテーマが与えられる
どのようにこの実験に反応していくのか診る
結果はどう出るのだろうか
どちらのケースが良いのか
両方ともやり直すべきなのか
何があれば良いとされるのだろうか
結果は、どこ、なに、いつ、を基準に受け入れられるのか
果てしないラボの毎日

子供 未来 夢 可能性。。。
あるのでしょうか。。。
どのように関わって行くべきでしょうか。。。
どう影響させていくのでしょうか。。。
何が待っているのでしょうか。。。



。。。人間は人形であってはならない